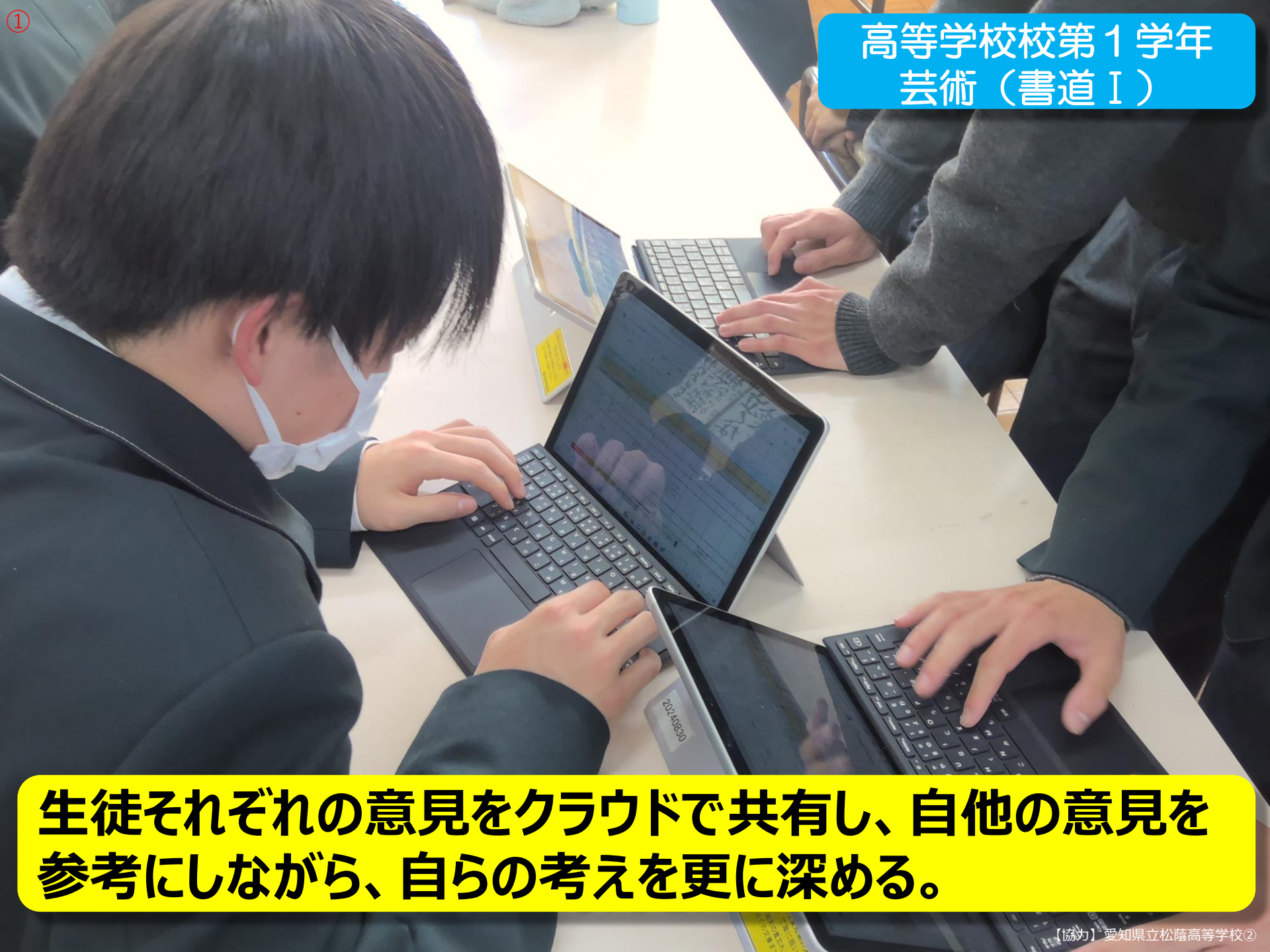


A photograph showing students in a classroom setting. In the foreground, a student with dark hair and a white face mask is focused on a laptop screen, with their hands on the keyboard. To their right, another student's hands are visible typing on a laptop. In the background, another student is partially visible, also working on a laptop. The laptops are open on a light-colored desk. The overall atmosphere is one of focused learning.

生徒それぞれの意見をクラウドで共有し、自他の意見を参考にしなが、自らの考えを更に深める。

高等学校第1学年 書道Ⅰ 「『漢字仮名交じりの書』の学習」

■ **単元の目標** (本単元は「A表現」と「B鑑賞」の複合的な単元であるが、紙面の都合上「B鑑賞」の目標のみ表記)

- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関りについて理解する。(知識)
- ・作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。(思考力、判断力、表現力等)
- ・書のよさや美しさを感じ、鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(学びに向かう力、人間性等)

■ 単元の概要

自らの表現の意図に基づいて構想・工夫しながら「漢字仮名交じりの書」の作品を制作し、自他の作品鑑賞、意見交換を通して、書の表現性や表現効果、生活や社会における書の効用、創造された作品の価値について考える。

■ 単元の指導計画 (10時間)

展開1

- 「自らの表現の意図に基づき、作品を構想し表す」
- ・作品の展示場所を想定し、目的や用途を踏まえた効用・表現効果から表現の意図を考える
 - ・表現の意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫して作品(草稿)を制作する

展開2

- 「制作した作品、表現の意図、表現の工夫を共有し、それぞれに構想と表現の工夫の見直しを行う」
- ・見方・考え方を働かせ、作品の相互鑑賞、意見交換をし、構想と表現の工夫の見直しに生かす

展開3

- 「表現の意図、構想と表現の工夫の見直しに基づき、作品(清書)を表す」
- ・見方・考え方を働かせ、表現効果や効用を意識しながら、表現の意図に基づいて表現を工夫し、作品を制作する

展開4

「**全体鑑賞会、これまでの学習を振り返る**」

- ・見方・考え方を働かせ、制作した作品を相互鑑賞し、意見交換する

■ 各展開の概要

作品の展示場所を想定することは、表現効果を書の効用の視点から捉えることであり、作品を鑑賞する他者を意識することが求められる。伝える場面やそこでの効用、表現効果を十分に踏まえて、ふさわしい題材を選定し、適切な表現の意図に基づいて構想・工夫しながら作品を制作するとともに、制作の過程で考えたことや感じたことをデジタルデータとして蓄積する。

自他の作品・考えをICTを活用して交流させ、見方・考え方を働かせて自らの作品・考えを客観的に分析し、自身と異なる他者の作品や考えを自らの構想と表現の工夫の見直しに生かしながら、それぞれに見方・考え方を広げ、表現・鑑賞に係る考えを深める。

他者との作品の相互鑑賞と意見交換により広げた見方・考え方を更に働かせ、それぞれに構想と表現の工夫について繰り返し見直し、それに基づいて作品(清書)を制作する。

本単元(及びこれまでの学習)での表現と鑑賞の学習活動における自らの考え、構想や表現の工夫の過程を振り返り、見方・考え方を働かせて、書のよさや美しさ、生活や社会における書の効用、創造された作品の価値について主体的に考える。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（展開４）

【学習活動の場面】

「漢字仮名交じりの書」の「創作」作品として制作・完成した作品の相互鑑賞・意見交換を行った。活動に当たり、教師は「これまでの学習で考えてきた『よい作品』とは何だろうという（本質的な）問いと、“もっと『よい作品』にするにはどうしたらいいだろう？”という問いを振り返ってみて、改めてこれらの問いに対する皆さん自身の考えを答えてもらいます。相互鑑賞や意見交換を通して、他の生徒の作品や意見、教師のアドバイスも参考にしてみましょう。」と投げかけた。

【子供の「深い学び」の姿】

生徒Bは、単元の冒頭での問いかけに、次のように書き込んでいた。

（「よい作品」とは）「見る人の心を打つ作品」、「思いのこもった作品」

次に、本単元「漢字仮名交じりの書」での学習の振り返りの中で、次のように書き込んだ。

（「よい作品」とは）「用筆や運筆を工夫して自分が表現したいことを表せている作品」、「一画一画に印象や意味を持つ作品」、「文字の大小や線質の潤渇の変化や、線質に運筆の抑揚による変化がある作品」、「言葉の意味に合わせた表現の工夫がされていて、字形や全体構成から伝えたい内容や印象が伝わる作品」

その後、本単元を含むこれまでの「書道Ⅰ」での学習活動の中での自らの考えの過程を振り返ったり（デジタルポートフォリオを活用した「書道Ⅰ」の総括的活動）、改めてこの問いについての意見交換の場を設けて他者との見方・考え方、意見の交流をしたり、生成AIを活用した文章要約をクラウドに提示したものを参照したりすることを経て、「よい作品」について、生徒Bは更に次のように書き込んだ。

（「よい作品」とは）「技能面での上手下手ということだけではなく、自己表現として何を表したいか、伝えたいかがしっかり伝わる作品」、「もしかしたら『よい』かどうかは鑑賞する側、受け取る側によって決まるような気がするので、他者からどういう印象で見えるか、どうすれば伝わるかを考えて工夫している作品」、「書を構成する要素、表現性、表現効果という段階を丁寧に計画して制作した作品」、一番大切なのは「見る人が幸せになれる作品」なのかもしれない。見るだけかもしれないが、これからも書や芸術に触れていきたい。

【当該指導での「深い学び」】

単元の振り返りの段階では、創作すること、表現すること、伝えることについて分析的に考えてはいるものの、本単元の学習範囲、表現活動の視点に限定していたが、例えば表現または鑑賞の活動に重きを置いて学習を進めた他者の考えに触れるなどして、表現と鑑賞を関わらせて作品や書のよさや美しさについて考えようとするようになった。さらに、生活や社会の中での書の効用や創造された作品の価値、自身の将来の関わり方にも言及し、教科・科目の学びの本質、「書道Ⅰ」を学習することの意味を自分ごととして自分なりに実感的に捉えようとする主体的な姿勢が見られるようになった。

【活用したソフトや機能】Excel・ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

■指導上の工夫とICTの利活用

①絞り込んだ対象について、協働アプリを使って意見交換をする。

* 共通の課題についてクラス全体で意見交換することにより、同一の対象に多様で大量の情報を集めることができ、自身とは異なる考え、見方・考え方と交流する機会が拡大する。

②クラウドで互いの考えを共有・参照し合い、他者の考えを生かして自らの考えを客観視し具体化できる活動の場とする。

* 端末を使って情報を共有するだけでなく、生徒自身が考えてきた過程や、他者が考えてきた過程を一覧できるシートを作成することで、知識の習得・実現状況、思考力、判断力、表現力等の習得・実現状況とその過程を具体化・一般化することが可能となる。

③生成AIを活用し、クラス全体の考えの傾向や文章要約を通して、生徒それぞれが自身の考えと向き合い、更に深める。

* クラス全体の考えの傾向や全体の考えを要約した文章との比較により、自身の考えを振り返り、客観的に捉え直し、さらに深めることに生かす。



学習指導要領や解説との関連

高等学校学習指導要領 第2章第7節芸術 第10書道

2 内容

A 表現

(1) 漢字仮名交じりの書

ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら，次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。

(ア) 漢字と仮名の調和した字形，文字の大きさ，全体の構成

(イ) 目的や用途に即した表現形式，意図に基づいた表現

(ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり

(イ) 名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 目的や用途に即した効果的な表現

(イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現

B 鑑賞

(1) 鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，次の(ア)及び(イ)について考え，書のよさや美しさを味わって捉えること。

(ア) 作品の価値とその根拠

(イ) 生活や社会における書の効用

イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。

(ア) 線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わり

(イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化

(ウ) 漢字の書体の変遷，仮名の成立等

(I) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態